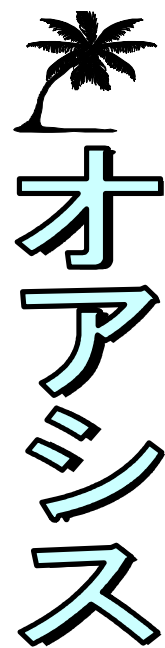


空調事業の事業再編を検証

日立ジョンソンコントロールズ空調
と関連会社で働く
人のネットワーク



2024年11・12月
No. 104
発行：オアシス
編集委員会
連絡先：多田義幸
TEL
090-9121-0602

日立製作所は、今年の7月にジョ

ンソンコントロールズ日立空調（JCH）について、日立グローバルライフソリューションズ（日立GLS）とジョンソン・コントロールズ・インターナショナル（JCI）が所有する全株式をボッシュ（Robert Bosch GmbH）に譲渡する契約を締結したと発表しました。この中で、清水事業所は、日立GLSに統合される予定です。今の体制や状況は維持され、ボッシュに移る事業所と清水事業所との関係は維持され、ボッシュに移った事業所での日立ブランドの使用は継続するとの話です。しかし、資本が変わっても、事業に影響がないということは考えにくく、今後について不透明な状況があります。そこで、日立の空調事業のこれまでの事業再編を確認することで、問題点などを検証できればと思います。

再編①日立空調システム

1999年に日立製作所の清水工場が事業部門丸ごと分社化され、日立冷熱と合併して、業務用空調・冷凍機の専門メーカーとして日立空調システムが設立されました。その後、業績が不調などところでの分社化であり、人員整理、賃金カットが行われました。また大阪の茨木工場を閉鎖して清水事業所への統合が行われました。2005年には、三菱重工の冷熱事業本部との合併が計画されましたが、見送りととなり、家電事業関係の日立ホーム・アンド・ライフ・ソリューション（日立H&L）と合併することになりました。この際、日立空調システムは、業績が回復していた一方で、日立H&Lは業績不

振でした。

再編②日立アプライアンス

2006年に日立空調システムと日立ホーム・アンド・ライフ・ソリューションの合併により日立アプライアンスが設立されました。その後、日立ライティングと合併しますが、青梅事業所の閉鎖等が行われました。清水事業所では、随時人員削減が行われてきました。

再編③日立ジョンソン

「コントロールズ空調

2015年に日立アプライアンスの空調部門が、ジョンソンコントロールズとの合併会社としてジョンソンコントロールズ日立空調が発足し、清水事業所は日立ジョンソンコントロールズ空調となりました。この時、ジョンソンコントロールズは、日立の空調ソリューションを取り込み、幅広い製品群をアジア市場に投入し販路拡大を狙うとし、また日立グループも、ジョンソンコントロールズの販売領域を活用し、海外での収益拡大を目指すとのことでした。しかし2024年になり、ジョンソンコントロールズは売却先を模索し、日立は清水事業所以外をボッシュに売却することになりました。

再編で起きていること

日立空調システム設立以来、再編が3度目となり、再編の間隔は、7年、8年。9年と10年以内に起きています。また再編の都度、工場の閉鎖や、人員削減、賃金ダウンなどが行われてきました。今回の再編では、引き続き、派遣社員等を含めた雇用、賃金、事業所等を守る経営を行うことが求められています。